Unit
be your supporter
月刊
部品新聞
2006年2月
第4号
編集・発行　Unit

石原知事と議論する会

1月31日に都庁で行われた～東京ビッグトーク～石原知事と議論する会というものに行ってきました。

今回のテーマは「スポーツと都市」で「2007年2月に開催することとなった東京マラソンや2016年以降の東京オリンピック招致を視野に入れ、多くの人が集まるスポーツイベントを東京で開催する意義について考えます。」という副題もついていました。

壇上に都知事とコメンテーターがならび話を進めながら、途中で事前に選ばれた都民が2名、傍観席から自分の考えを発表するというものでした。

コメンテーターは川淵三郎氏－日本サッカー協会キャプテン、原田宗彦氏－早稲田大学教授、大林素子氏－スポーツキャスターの3名。コーディネーターは白石真澄氏－東洋大学助教授でした。

傍聴者は建設業界と思われるネクタイ族の人、行政関係と思われる人など、「都市」の部分にひかれて傍聴をしている人が半分以上、あとはリタイヤした年配の方。現場も含めたスポーツ関係らしき人はほとんどいませんでした。

さて内容ですが、まず白石氏の司会でコメンテーターがテーマに関連した話を展開しました。各コメンテーターの話を私なりにまとめてみました。

●石原氏
「東京でオリンピックを行いたい。場所がないといわれるが、築地も移転するし、結構場所はできる。日本の技術力を生かして独特のオリンピックを作り上げることができるのではないか。東京から日本を元気にしていきたい。」

●川淵氏
「スポーツイベントが競技場や輸送方法などのハードだけではなく、観客や選手、ボランティアなどが一体となれば、子供たちが希望を持てるすばらしいイベントを作り出すことができるのではないか。」

●原田氏
「世界には自動車を都市機能の触媒としたデトロイトのモーターシティなどの例があります。それを見習って、スポーツを都市機能の触媒としたスポーツシティをつくりあげてはどうか。」

●大林氏
「世界各国で戦ってきて感じたことは、スポーツが文化として根付いている国は強い。」

●石原氏
「ロンドンはコンパクトが売りで当選した。東京はもっとコンパクトにできる。これだけ公共交通網の発達した都市はない。それと日本人のホスピタリティはすばらしいものがある。」

●都民A
「スポーツイベントはお祭り。一体感を味わえる仕組み作りをお願いしたい。」

●川淵氏
「スタジアムの有効利用を考えてはどうか。日本は規制ばかりで大変だが、海外に目を向けるとスタジアムのなかに小学校や幼稚園があったりするところもある。設計の段階でもう少し中身のある設計をしてみてはどうか。スタジアムの屋根もあれでは雨を防ぐための屋根ではない。それと、経済波及効果を期待してスポーツイベントを行うことには反対である。日本の文化を世界に紹介するということをもっとしなければならない。」

●原田氏
「経済波及効果はいろいろ試算されているが実際にそれを検証した人はいない。おそらくできない。それよりもオリンピック後の遺産は何かを考えるべきだ。施設などのハードだけではなく、ソフトの面でも。」

●都民B
「NPOの理事をしているが、行政の壁が高い。もう少し理解を期待したい。」

●川淵氏
「行政が動いてくれることを期待するのではなく、自分でいろいろは方法でアプローチする方がよいのではないか。行政はトップダウンではうまくいかない。指導に熱意のあるスタッフを集め、それを周りに知らしめ、ネットワークを使ってしたから固めるのがいいのではないか。」

●原田氏
「総合型地域スポーツを同世代の楽しみとしての共同体ではなく、機能体として考え、スポーツを事業として考えてゆかなければならない。」

●川淵氏
「Jリーグがいろいろなスポーツをやり始めた。浦和がいい例である。これにならって他のチームも同様の施設を作り出すのではないか。」

●石原氏
「行政に壁があるのは確かだ。スポーツに関しても映画と同様に窓口を設けてそこだけで申請がすむようにしたい。」

●多湖輝氏（突然の指名）
「品格がない人が多い。変えてはいけないものを変えない勇気、変えなければいけないものを変える勇気が必要。伝統文化に関心を持ち、大切にしなければならない。」

●川淵氏
「子供が外に出たくなるような場所を作るべき。例えば芝生のグラウンドがあれば昼休みに何も言わなくても外に出て遊ぶであろう。場所だけでなく、指導者や仲間があれば子供たちは自ら進んでいろいろなことを行うだろう。やらされているだけでは長期にわたってスポーツを続けることは難しい。」

●白石氏
「まとめをすると、スポーツイベントを通じて都市を改造していく。その中でスポーツの楽しさを実感してもらい、観光のきっかけになればいいのではないか。」

結局「スポーツと都市」と言う話題に対しては中途半端な内容でありました。石原氏が「東京でオリンピックをやりたい。」と言いたいだけのために開催されたのかとも思ってします。

それにしても川淵氏の着眼点はすごい。世界レベルの選手を輩出する仕組みをJリーグで作り出しただけのことはあります。

他のスポーツでもハード面だけではなく、ソフト面の改革をすれば、今すぐというわけにはいかないが、世界で戦える選手は必ず出てくるのではないでしょうか。

Unit代表　澤野 博（さわの ひろし）

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部品となって選手を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のトレーニングコーチ。

ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。
0422-34-5055(Fax兼用)、090-1999-2845 または unit@mbd.nifty.com

はみだし：トリノ五輪　メディアの興味　どこにある　競技自体か　メダルの数か